

2026年3月31日
株式会社みずほ銀行

国内初となる借入人とエージェント間の電子署名を活用した シンジケートローン契約の締結について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、このたび、国内で初めて借入人とエージェント間で電子署名を活用したシンジケーション方式のローン契約を締結（※1）しました。

本件は、GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社（代表取締役社長：青山 満）が開発・提供する電子契約サービスである「電子印鑑GMOサイン」（※2）を活用し、従来、書類への署名・押印、受け渡しによって行われていたシンジケートローン契約の締結プロセスの一部を、電子署名を用いてデジタル化したものです。

従来、シンジケートローン契約は、借入人・貸付人・エージェントといった複数の関係者が契約当事者となるため、本人確認や合意形成の観点含め、紙による署名・押印が行われてきました。一方で、複数の関係者間で書類の受け渡しを郵送や手渡しで行うなど、契約に掛かる時間の短縮や効率化が課題でした。

今回の取り組みでは、貸付人からエージェントに委任状を差し入れ、エージェントと借入人間の契約には電子契約サービスを利用しました。電子契約サービス利用時に2要素認証を含む厳格な本人確認を実施することで、複数の関係者が関与するシンジケートローン契約においても、安全かつ円滑な電子署名による契約締結が可能となりました。これにより、借入人とエージェント間の契約書の受け渡しが不要となり、スピーディーな署名対応を実現することで、効率化・紛失リスクの低減に繋がりました。

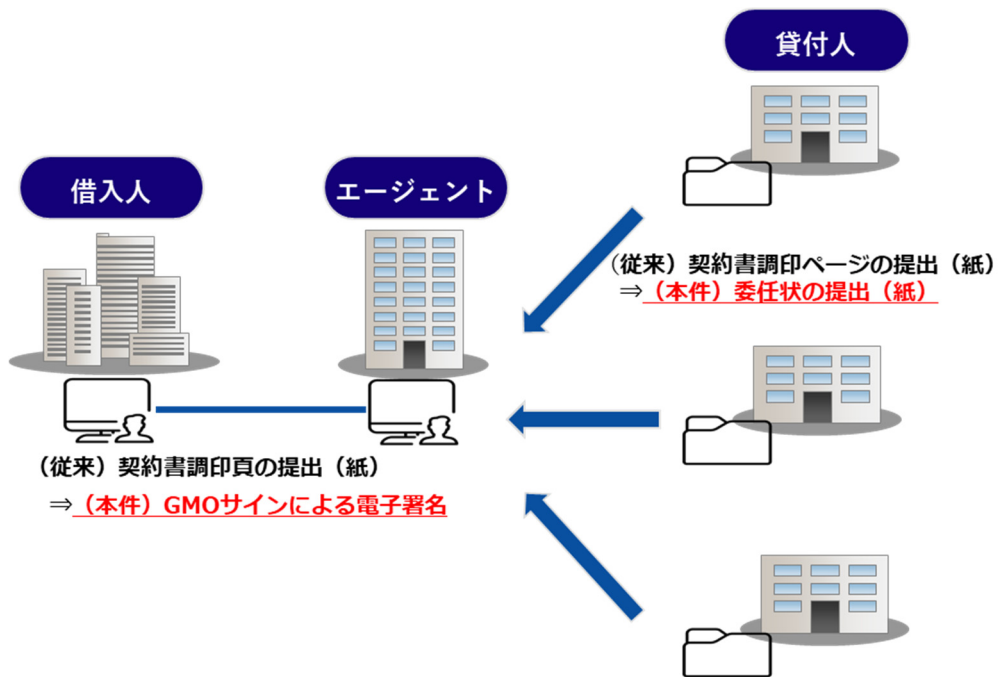
〈みずほ〉は、本取り組みを通じて、金融業務のDXを加速させるとともに、多様化するお客さまのニーズに柔軟かつ迅速に対応すべく、利便性向上と業務プロセスの最適化に積極的に取り組んでいきます。今後は貸付人も含めた電子契約利用の拡大にも取り組んでいく予定です。

今後も多様化するお客さまのニーズに柔軟かつ迅速に対応すべく、金融サービスの高度化・利便性向上を推進していきます。

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

＜今回スキームのイメージ＞



- (※1) 第一号案件：大成建設株式会社（実行日：2026年3月31日）
プリマハム株式会社（実行日：2026年3月31日）
- (※2) 「GMOサイン」について (<https://www.gmosign.com/>)

以上